

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	国際関係論	
科目基礎情報							
科目番号	0063		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年		専2		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	随時指示する教材						
担当教員	海老原 毅						
到達目標							
1. 国際関係論の基本的な概念, 思想と分析枠組みについて理解できる。 2. 近代から現代に至るまでの国際関係の主な秩序について理解できる。 3. 環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係を日本の二国間関係から分析できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		国際関係論の基本的な概念, 思想と分析枠組みについて十分に理解できる。		国際関係論の基本的な概念, 思想と分析枠組みについて理解できる。		国際関係論の基本的な概念, 思想と分析枠組みについて理解できない。	
評価項目2		近代から現代に至るまでの国際関係の主な秩序について十分に理解できる。		近代から現代に至るまでの国際関係の主な秩序について理解できる。		近代から現代に至るまでの国際関係の主な秩序について理解できない。	
評価項目3		環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係を日本の二国間関係から十分に分析できる。		環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係を日本の二国間関係から分析できる。		環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係を日本の二国間関係から分析できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		本科目では, 多様な主体による行動から形成される国際社会の実情を, 国際関係論の概念・枠組みを用いて理解する視座と方法を養う。					
授業の進め方・方法		前半では, 国際関係の分析枠組みとして基本概念と理論について教授し, また近現代の主な世界秩序とその背景を第一次世界大戦から冷戦まで教授して, 冷戦後の国際関係の特徴に対する理解を促す。後半では, グローバル化の進展とその趨勢下における国家のパワーの分析枠組みを教授した後, その分析枠組みを用いて, 環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係の現状分析として, 日本と主要国との各二国間関係について発表と討論を行う。					
注意点							
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンス			シラバスを通して、本科目の概要を理解する。	
		2週	国際関係論の主題			国際関係論の中心課題について説明できる。	
		3週	国際社会の特徴, 国際関係の主要なアクター			国際関係論の主要理論のうち, リアリストの議論と主な論者について理解できる。	
		4週	国際関係論の理論 (1)			国際関係論の主要理論のうち, リアリストの議論と主な論者について理解できる。	
		5週	国際関係論の理論 (2)			国際関係論の主要理論のうち, リベラリストの議論と主な論者について理解できる。	
		6週	近現代の国際関係 (1)			近代国際関係の成立から第一次世界大戦前までの経緯を理解できる。	
		7週	近現代の国際関係 (2)			第一次世界大戦から第二次世界大戦前までの経緯を説明できる。	
	4thQ	8週	近現代の国際関係 (3)			第二次世界大戦から冷戦期までの経緯を理解できる。	
		9週	近現代の国際関係 (4)			冷戦後の国際関係における変容について関する文献を読み, 討論できる。	
		10週	グローバル化の進展と国家 (1)			グローバル化の概念を明確にし, グローバル社会における国家の作用と影響について理解できる。	
		11週	グローバル化の進展と国家 (2)			グローバル化が進展する国際社会の中で国家のパワーに関連する文献を読み, 討論できる。	
		12週	環日本海・東アジア地域の国際関係の現状分析 (1)			環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係について, 情報を収集し, 現状分析できる。	
		13週	環日本海・東アジア地域の国際関係の現状分析 (2)			環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係について, 現状分析を発表し, 討論できる。	
		14週	環日本海・東アジア地域の国際関係の現状分析 (3)			環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係について, 現状分析を発表し, 討論できる。	
		15週	環日本海・東アジア地域の国際関係の現状分析 (4)			環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係について, 現状分析を発表し, 討論できる。	
16週		レポート返却、授業アンケート					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	20	0	0	0	80	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	20	0	0	0	80	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0